第４号 柴田学園報 にわうるし 平成 24 年 2 月 15 日発行 【一部抜粋】

学園事業 地域交流

短期大学・柴田女子高校 校舎の改修事業計画すすむ

一昨年の東北女子大学新校舎落成に続く事業として、学園では短期大学・柴田女子高校についても今後計画的に改修をしていく方針です。

短期大学については、平成22年度の耐震審査の結果をふまえて短大校舎改修とキャンパス環境整備計画がすすめられています。

改築予定部分は正面校舎とカフェテリア側校舎で、それに対応するスペースを現在のテニスコート側に新築し、5階校舎と連結する構想です。

すでに改築にあたっての課題検討に入っており、今後本格実施に向けて更に計画を練る予定です。

また、柴田女子高等学校校舎についても老朽化が見られることから同様の計画をすすめる方針で、具体的なプラン作成の検討が始まっています。

▲短期大学校舎のみどり屋根Ｌ字部分を改築する予定

▶平成23年度内に解体される済美寮（写真右）秀芝寮と合同の食事をとるために行ったり来たりしていた寮生の姿が懐かしい

■東北経理専門学校廃止に伴うカリキュラムの移行

昭和62年に学園七つ目の教育機関として坂本町に開設された経理専門学校は、24年間にわたって商業分野における職業教育を行い地域に貢献してきましたが、経営合理化のため平成24年3月で廃止することになりました。平成24年度よりそのカリキュラムを、コンピュータ専門学校情報処理科（一年課程）の「情報ビジネスコース」で引き継ぐことになっています。このコースでは簿記会計、医療事務、パソコンの三本柱で授業を編成。各種ビジネス系資格検定に直結した内容で職業選択の幅を広げることを目標にしています。

■短期大学被服科募集停止

昭和25年に設置され多くの有為な人材を育成してきた短大被服科は、平成24年3月で61年の歴史に幕を閉じることになりました。昭和30年代には有能な家庭科教員を輩出して青森県の教育推進に貢献。その後も57年度に衣料管理士養成に着手、平成5年度にアパレルキャドシステムを導入するなど、時代と共に歩む努力を続けてきましたが、大量消費社会を迎えて衣に関する知識や技術も変容し、時代の流れに抗しきれず平成24年度より学生募集を取りやめることとなりました。今後はこれまで培ってきた知識や伝統の技能を生活科のカリキュラムの中に生かし、短大発祥の科である被服科が誇る染色や手工芸、被服製作における優れた技術と感性を継承していくことになります。

■山の家「ヴィラ柴田」の改修

弘前市百沢にある宿泊研修施設「ヴィラ柴田」では、11月に大規模な改修を行い、宿泊棟の屋根や外壁など外部保護を中心に補修しました。また除雪機も更新。スキーシーズンや春の校内研修に向けて、通年利用の備えを万全にしました。

学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム 「6大学合同公開講座」

市内6大学が集結して弘前の人々の暮らしを考える公開講座が、平成24年1月24日、1月28日、2月4日の土曜日に弘前文化センターを会場に開かれました。参加対象は一般・大学生・高校生で、学園関係では4人の先生方が1月28日（土）の午後に次のテーマで講演しました。

教授 島内智秋

●東北女子大学「子育てをして気づくこと」

講師 前田朝美

講師 今村麻里子

准教授 土谷庸

●東北女子大学「消化を助ける、青森県産食品とその家庭での利用」

地域の名物だった「シバタの作品展」より

- 平成15年1月　短大・女子大合同作品展
- 平成17年10月　白神とキルトフェスIN弘前
- 平成19年6月　思い出の作品一針目展

間仕切りのれん「展望」の一部

アップリケ「学校のある町弘前」

多彩な技法で魅せた「針目展」

刺しゅう「秋芳」

教育と研究

東北女子大学の教員が 円熟の演奏で魅了

アンコールにこたえる一戸先生

●**山﨑祥子先生**
8月28日に、弘前学院大学礼拝堂において行われた「関山幸弘　N響弘前公演記念演奏会」にゲスト出演し、一戸智之先生の伴奏でR・シュトラウスの歌曲や日本の歌曲を豊かな流麗な表現で披露しました。関山さんは弘前市出身のNHK交響楽団首席トランペット奏者で、前日に行われた弘前公演を記念して、かねてから念願であった山崎先生とのジョイントコンサートを実現させました。

●**安達弘潮先生**
11月19日に弘前市民会館において行われた「弘前大学フィルハーモニー管弦楽団　第42回定期演奏会」に常任指揮者として出演しました。曲目はベートーベン作曲「歌劇『フィデリオ』序曲」、ラロ作曲「ノルウェー狂詩曲」、ラフマニノフ作曲「交響曲第2番」で、緻密さと力強さで壮大な音世界を作り出し、客席を酔わせました。

●**一戸智之先生**
12月6日に弘前市民会館において「一戸智之ピアノリサイタル」が開かれ、ベートーベンやショパンの曲を豊かな演奏で披露しました。ベートーベンのピアノソナタの中でも人気の高い『悲愴』『月光』では、繊細な旋律から一転、激しく情熱的な表現に展開。またショパンの「24のプレリュード」では、全24曲を一つの連作詩集として35分で一気に弾き、超絶技巧を散りばめたショパン特有の抒情性を表現し、聴衆から大きな拍手が送られました。

2011　東北女子大学・東北女子短期大学　紀要50号　掲載論文

河西達夫：心臓の刺激伝導系解明の歴史的考察
三上　健：*Candida albicans*の病原性と形態変化を制御する因子
松宮ゆり：本学学生における低血圧に関する調査
西山邦隆・田中夏海：冷蔵庫内の温度測定　～種々の条件による温度変化について～
今村麻里子：食育活動の成果と課題　－平成22年度青森県食育啓発活動を通して－
諸岡みどり：新実習室における「給食の運営実習」の実態と学生の自己評価
前田朝美・齋藤　望・中村亜紀：夜型生活による食べる力の低下と身体変化
阿部直子・木村康子・岡本由美子・真野由紀子：肥満学生への改善支援
齋藤　望・前田朝美：食欲の日内リズムの違いによる食品摂取の季節的変動
花田玲子：主食の食品形状（粒・粉）による血糖値と満腹感への影響
小澤　熹：国家総動員体制下における教育制度改革　～青年学校男子義務制化への動き～
岩井哲雄：フレーム問題としての教師の実践力養成
西　敏郎：学制実施における普及と定着についての一考察　～明治初期の青森県の統計的特徴から～
高橋美美子：不登校事例へのスクールカウンセラーのコンサルテーション
西谷紀久子：田村虎蔵の唱歌教育　－言文一致唱歌創作をめぐる論争を中心に－
佐々木典彰・森　和彦：幼稚園における保育者の行動の特徴に関する一考察
兼平友子：遊びから学びへつなげるための保育者の役割　－オランダの幼児教育法から－
奈良裕美子：幼稚園における子育て支援　～幼稚園と家庭との連携のあり方について～
工藤寧子・奈良拓哉・葛西美樹：被服構成実習支援のためのマルチメディア教材開発
尾崎康弘：教科目「コンピュータ概論」に関する考察Ⅲ　－前年度との比較を中心にして－
小山尊徳：〈研究ノート〉ゲームニクス理論の実践的研究（1）　－ＮＵＩコントローラに関する考察－
増田順子・尾崎康弘：携帯電話による安否確認が可能な学習支援を目指したサイト構築
杉本久美子：*The Machine Stops* 一試論　－象徴的表現の意味とその効果について－
町田秀子：中国語における構文「是・・・的」について　～強調する意味を持つ際の成立条件～
保村和良：明治期に弘前に滞在したアレキサンダー　一家と其の時代
兼平拓道：パナソニックの企業分析（Ⅰ）
篠村正雄：高木久蔵の「道中手帳」嘉永三年（一八五〇）について
佐々木　隆：良寛さんの歌、自選歌集・布留散東（ふるさと）を読み解く

表彰を受ける片岡先生

■弘前市文化振興功労章

柴田女子高等学校長片岡通夫先生が、弘前市文化団体協議会（会長吉澤秀香）が顕彰する第5回弘前市文化振興功労章の受章者に選ばれ、11月3日にホテルニューキャッスルにおいて表彰式が行われました。

中学校教諭時代から俳句、短歌、詩を熱心に指導し、柴田女子高校長の現在も、全国高文連俳句第一位、俳句甲子園上位入賞に導くなど、文芸振興に尽した功績に対して贈られました。

■栄養士養成功労賞受賞

短期大学の北山育子先生が、多年にわたって栄養士養成教育に貢献した功績により、11月3日付で、社団法人全国栄養士養成施設協会（会長木村義雄）より表彰状を授与されました。昭和51年より給食の運営分野において調理実習を担当するかたわら、郷土料理の研究等に専門性を発揮した業績が認められたものです。

■柴田幼稚園が研究発表

文部科学省と青森県教育委員会が主催する平成23年度幼稚園教育課程青森県研究協議会において、柴田幼稚園の神恵子園長が「学校評価の取り組み～保護者アンケートを中心に」のテーマで、8月19日に研究発表をしました。

その県代表として、12月13日・14日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて行われた全国大会にも出席し、講演や分科会の協議を通してさらに理解を深めました。

第４号 柴田学園報 にわうるし 平成 24 年 2 月 15 日発行 【一部抜粋】

俳句甲子園に出場した柴田女子高校

東北女子大学

「スクールサポーター」平成24年度から単位化の予定

平成23年度から弘前市内13小学校（教育実習協力校）において、スクールサポーターが通年で実施されています。児童学科4年次に行われるこのスクールサポーターは、教育実習の充実を図るとともに、将来教師となるための資質向上を目指すものです。学生は9月の教育実習をはさんで1年間、週1回実習校に通って様々な体験をしました。

前期は教育実習の準備段階として、先生方の授業見学、学級作りやその経営、学校事務について学び、また、児童との遊び・学習・学校行事の活動を通して、教師としての学校生活の基本を体験的に学びました。

後期は、教員としての役割・責任・喜びを実感し、事後のアンケート調査でも「児童一人ひとりの特徴が把握できた」「時間をかけて授業観察ができ、参考になった」など、有意義であったと答えています。

平成24年度からこのスクールサポーターは、教育に関する総合的な能力を高める科目「学校教育体験実習Ⅰ・Ⅱ」として単位化される予定です。

「わからないところ聞いてね」

全国女子大学の中で8年連続就職率トップ！

大学通信社がまとめた全国の大学における平成22年度の就職率調査が、読売新聞社発行の「就職に強い大学2012」に掲載され、東北女子大学が「就職率ランキング女子大学の部」でトップとして紹介されました。この実績は8年連続の快挙となります。

読売新聞社発行「就職に強い大学」と女子大学のデータ

厳しい就職環境にも負けず、地道な努力を続ける学生の心意気が結果としてあらわれたもので、本学の名は、「就職に強い女子大学」として定着しています。

平成23年度の就職も幾分東日本大震災の影響を受けているものの、本学で取得できる免許・資格を生かした教員・栄養士・保育士などの専門職が伸びており、順調に推移しています。

就職率ランキング

8年連続1位達成!!

女子大学の部

順位	大学	所在地	卒業者数	就職者数	大学院進学者数	就職率
1	東北女子大	青森	73	67		91.8
2	岐阜女子大	岐阜	234	207	8	91.6
3	安田女子大	広島	778	677	17	89.0
4	女子栄養大	埼玉	514	449	7	88.6
5	名古屋女子大	愛知	551	468	8	86.2
6	東京女子体育大	東京	421	360	3	86.1
7	昭和女子大	東京	1,034	839	59	86.1
8	津田塾大	東京	651	508	57	85.5
9	桜花学園大	愛知	198	162	8	85.3
10	九州女子大	福岡	316	255	13	84.2

柴田女子高等高校

俳句甲子園初出場で準々決勝に進出

松山市で8月19日～21日に開かれた第14回全国俳句選手権大会（俳句甲子園）に出場した本校は、準々決勝で敗れましたが、決勝トーナメント1回戦で昨年の優勝校開成Aを破る金星を挙げ全国に存在感を示しました。

今回は全国から36チームが出場。1チーム5人が互いの作品に対する鑑賞ポイントを対戦ごとに競って勝敗を決めるものです。

本校のメンバーは、3年の白取美穂さん、石岡美穂さん、岩淵由佳里さん、2年の石岡真優さん、中山唯衣さんの5人で、上位に行くごとに力を発揮し、白取さんが「木陰にて雲を数える昼寝時」の句で個人賞入選、石岡美穂さんは審査員特別賞を受賞するなど大健闘しました。

バスケットボール部全国大会で善戦も力及ばす

12月23日に東京で行われた全国高校選抜バスケットボール大会（ウィンターカップ）で本校は1回戦で東京成徳大高校と対戦。

第4クォーターで6点差まで迫ったものの力及ばず、57対44で敗退しました。中野渡唯主将は「ディフェンスもオフェンスも走って攻めていきたい」と大会前に日刊スポーツの取材で話していましたが、東京成徳大高校の厳しいディフェンスに阻まれ、ウィンターカップでの1勝は来年に持ち越されました。

日本刺繍館にて

全国文芸コンクール俳句部門入選

「放課後の机に降りた桜かな」で入選したのは2年の工藤香穂さん。「放課後帰り仕度をして教室を出ようとした時、オレンジ色の夕日をあびて窓から小さな桜の花びらがそっと机に舞い降りた。その光景に心ひかれ、何か温かいものに包まれたような気がした。」と、この句を作った時の様子を話していました。

東北女子短期大学

京都へ研修旅行

被服科2年生が9月13日から16日まで京都へ研修旅行に行ってきました。

日本刺繍館では緻密で絵を思わせるような刺繍にふれ、川島織物中央技術センターでは緞帳製作の現場を見学し、また古代友禅苑では友禅染めの体験をしました。京都の街並みや、清水寺へも足を運び、日本の伝統と技の素晴らしさに刺激を受けた旅行でした。

ホットアップルジュースを使ったレシピを考案

このほど青森県中南地域県民局から、冬のりんご消費拡大のために作られた「ホットアップルジュース」を使ったバリエーションメニューを作ってほしいとの依頼があり、さっそく栄養研究部が取り組みました。

部員イチ押しの「さつまいもアップル」をはじめ、「ホットアップル黒糖ジンジャー」「アップルマーマレード」「とろ～りホットチョコアップル」など8種類のレシピを考案。手軽に楽しめるアレンジレシピができました。短大ホームページでどうぞご覧ください。

「さつまいもアップル」

柴田幼稚園

広いグラウンドで「サッカー気持ちいいよ」

9月から課外活動としてリベロ津軽スポーツクラブによる「キッズサッカー教室」を始めました。年長・年中組の希望する子を対象に降園後実施していますが、現在女児7人を含む36人が入会しています。秋まではグラウンドで、冬はホールで行っています。

ゲームのような楽しいレッスンで、コーチや友達と1時間伸びのびと遊び、体を動かしています。終わった後はどの子もニコニコ顔で帰っていきます。

父母の会がPTA優良団体として表彰される

11月に柴田幼稚園父母の会が幼稚園では全国で本園のみ、PTA優良団体として文科省より表彰されました。

父母の会の活動としては、春は園庭や畑の環境整備、夏はねぷた囃子の参加、秋は運動会・バザーの手伝い、冬は文化活動や「県PTAの集い」への参加などがあり、1年を通して活発な交流を続けています。

受賞は、会長・運営委員の綿密な企画実行力と会員の協力の良さが認められたもので、嬉しいニュースに園は喜びに包まれました。

嘉手苅会長と運営委員のみなさん

東北経理専門学校

自分の目標に向かってラストスパート

今年度最後の検定試験に向けて、学生は目標としている資格取得のために日々頑張っています。

簿記2級、全経1級の取得は一年制の専門学校では厳しいのですが、初めて学ぶ学生も内容をしっかり理解できるように仲間と一緒に励んでいます。ワープロ・表計算・文書デザインでもめざすのは1級で、授業中はもちろん、昼休み時間、放課後、空き時間を利用して、少しでも速く打てるように毎日練習をしています。

税務会計検定では所得税法、法人税法、消費税法の3種類の試験があり、1つでも多く取得できるように税理士の先生に聞きながら頑張っています。

このような真剣な取り組みは必ず将来の夢に繋がるはず。ラストスパート!!

「最後のがんばりダ」

専門学校

東北栄養専門学校「田舎スイーツコンテスト」で初グランプリ！

地元の食材の魅力をレシピに反映させる取り組みをして5年目、中でも、津軽の米に焦点を当てた米粉加工品コンクールに挑戦して3年目になります。

基本の調理技術を学んだ2年生が全員でオリジナルレシピや製作を考え、試食し、評価し合ってコンテストに出しています。

今年は齋藤弓賀さんが、米粉スイーツ「キャラメル米ワッサン」で初のグランプリを受賞。米粉を使用したクロワッサンにキャラメルソースをかけた作品で、家業が精米所であったことと、授業でパンを作ったことで思いついたとか。さっくり、もっちりにキャラメルの甘味がピッタリの作品に仕上がりました。

グランプリ受賞を喜ぶ齋藤さん

東北コンピュータ専門学校 卒業研究成果を発表

1月26日に卒業研究発表会が開かれました。

今年は、アニメーション作成が可能なHTML5で学校紹介をした作品や、空間地理情報GISや使用電力計測器から取得した情報を携帯やスマートフォンで表示させる仕組みに挑戦した研究や、ICタグの活用を試みた研究など、5グループが発表しました。どの作品もコンピュータや携帯を活用して情報を分かりやすく伝える表現に工夫が見られ、聴講した父母や企業関係者から感嘆の声があがりました。今後、学校で培った技術や技能を社会にどう生かして貢献していくかがそれぞれの課題です。

HTML5を使った東コン体験ゲーム

【研究テーマ】

1. 空間地理情報（GIS）を用いたタウン情報サイト
2. 情報の蓄積と集計処理による情報の可視化について ～CBT結果のグラフ化～
3. HTML5の可能性
4. RFIDを活用したトレーサビリティシステム
5. Android電力見える化システム